

人にも環境にも優しく畑作物を護る「総合土壌くん蒸剤」

臭化メチル代替剤

キルピ[®]

一般名/カーバムナトリウム塩

有効成分/ナトリウム＝

メチルジチオカルバマート 30.0%

性状/黄色水溶性液体

刺激臭が少なく

土壌消毒ができます!

使用上の注意事項

注意 [効果・薬害等の注意]

1. 土壌くん蒸処理を行う場合は、次のことを守る。

- (1) 本剤を土壌注入する場合は、耕起整地した後処理する。特に粘土質土壌や大きな土塊が残っている場合には、効果が劣るので丁寧に実施する。
- (2) 本剤を施設で使用する場合は、施設内に作物がある場合または仕切りが不十分な連棟ハウスで暖房機の使用時には薬害のおそれがあるので使用しない。
- (3) 本剤を使用する場合は、重粘土質の土壌や降雨などで土壌水分が多い場合や秋冬期など平均地温が10℃以下になる場合等の残留が懸念される場合は被覆期間を延長するか、ガス抜き耕起を十分ににする。
- (4) 本剤を土壌注入、散布混和、灌水または土壌表面散布する場合は、土壌が乾燥しているとガスが抜けやすく、効果が出ない場合があるので、処理前に散水し土を握って放すと割れ目ができる程度にすることが望ましい。
- (5) 土壌病害、センチュウ類防除および雑草防除に使用する場合には、本剤を注入、散布混和、灌水または土壌表面に散布した後、被覆資材等で7～14日間被覆した後、被覆除去後さらに3～10日間経過してからは種または定植する。注入後に覆土・鎮圧した場合は10～24日間経過してからは種または定植する。
- (6) 気温の上昇する時期に、本剤を注入で使用する場合は、注入後直ちに被覆資材等で被覆する。
- (7) 本剤を土壌注入する場合は、注入間隔を出来るだけ狭くするのが望ましい。
- (8) 本剤を土壌に散布混和する場合は、処理後直ちに農業用被覆資材等で被覆する作業体系で実施する。その際、所定量を水で3倍程度に希釈して散布すると圃場に均一に散布できる。また寒冷地で根雪前に使用する場合は、処理後は覆土・鎮圧でもよい。
- (9) 本剤を灌水処理する場合は、次のことを守る。
 - ① 処理前の圃場は過剰散水による過湿はさける。
 - ② 使用する灌水チューブは水平型または点滴チューブなどを使用し、設置する灌水チューブ間隔は30～50cm程度が望ましい。灌水前に灌水チューブなどの灌水設備は農業用被覆資材等で予め被覆する。
 - ③ 灌水チューブへの薬剤送込には液肥混入器を用いるか、貯水用タンクに水希釈液を入れ灌水ポンプにより送水する。
 - ④ 所定量を水希釈液として灌水処理した後、直ちに1～2mmの降雨程度の後灌水をする。
 - ⑤ 水希釈割合は次を一応の目安とし、圃場土壌水分状態を考慮して適宜増減する。
 - ほうれんそう、きゅうり、すいか、トマト・ミニトマト、いちご、さやえんどう、実えんどう、たまねぎ、ねぎ・あさつき・わけぎ、なす、ピーマン・とうがらし類、メロン、花き類・観葉植物の場合は100倍程度を目安とする。
 - しょうが、みょうが(花穂・莖葉)、にらの場合には30～100倍程度の範囲より選択する。
 - ⑥ 液肥との混用はさける。
 - ⑦ クロルピクリンとの混用はさける。
- (10) 予め被覆した内で土壌表面散布する場合は、被覆期間は7～21日間とし、被覆除去後に3日間以上経過してからは種または定植する。
- (11) 花き類・観葉植物に使用する場合は、本剤はフザリウム菌及びリゾクトニア菌による病害に対し効果があり、同じ病名であっても病原菌が異なるものもあるので注意する。
- (12) かんしょ、きくなど挿し苗で定植する作物に本剤を使用する場合は、薬害を生じるおそれがあるので、被覆期間を延長するか、ガス抜き耕起を十分ににする。
- (13) たまねぎ苗床土に土壌表面散布する場合は、所定量を水で5～20倍程度に希釈し、15～20cmの高さに積み上げた土壌表面に均一に散布し、農業用被覆資材等で被覆する。

2. 古株枯死、病害虫の蔓延防止に使用する場合は、次のことを守る。

- (1) 水希釈割合は次を一応の目安とし、圃場土壌水分状態を考慮して適宜増減する。①きゅうり、トマト・ミニトマトに使用する場合は、50～100倍程度を目安とする。②ピーマン・とうがらし類、いちごに使用する場合は、50倍程度を目安とする。③にらに使用する場合は、30～100倍程度を目安とする。
 - (2) きゅうり、トマト・ミニトマト、ピーマン・とうがらし類、いちご、にらの古株枯死に使用する場合は被覆期間は3日間(25℃以上)～7日間(10℃)を目安とする。
3. 本剤の使用に当たっては使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意する。特に適用作物群に属する作物またはその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用する。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

④ 4. 本剤使用後の器具の金属部分は腐食される場合があるので十分水洗する。

⑤ 5. クロルピクリン、D-D及び両者の混合剤とは化学反応を起こし、発熱するまたは沈殿を生じ、器具の孔詰まりを生じる場合があるので、これらの剤とは混合して使用しないこと。またクロルピクリン、D-D及び両者の混合剤を使用した器具は灯油などで十分洗い、乾燥して本剤を使用する。また本剤を使用した後は、器具は必ず水洗し乾燥した後使用する。本剤が器具中に残っているとこれら他剤を加えることのないように注意する。

- [魚毒性等] (1) 水産動植物(魚類)に強い影響を及ぼすおそれがあるので、河川、湖沼及び海域等に飛散、流入しないよう注意して使用する。養殖池周辺での使用は避ける。
- (2) 水産動植物(甲殻類、藻類)に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用する。
- (3) 使用器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理する。

[保管] 直射日光を避け、食品と区別し、なるべく低温な場所に密閉して保管する。

注意 [安全使用上の注意]

1. 誤飲などないように注意する。誤って飲み込んだ場合には吐かせないで、直ちに医師の手当を受けさせる。

本剤使用中に身体の異常を感じた場合には直ちに医師の手当を受ける。

② 2. 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないように注意する。

眼に入った場合は直ちに水洗し、眼科医の手当を受ける。

③ 3. 本剤は皮膚に対して刺激性があるので皮膚に付着しないように注意する。

付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とす。

4. 土壌くん蒸処理の際は保護メガネ、農業用マスク、不浸透性手袋、ゴム長靴、長ズボン・長袖の作業衣などを着用する。

5. 灌水装置による処理を行う場合は、次のことを守る。

① 薬剤注入器(液肥混入器)はハウスの外部に設置する。

② 薬剤の希釈作業及び灌水装置取扱いの際は保護メガネ、農業用マスク、不浸透性手袋、ゴム長靴、長ズボン・長袖の作業衣などを着用する。

③ 薬剤処理中はハウス内に入らない。また薬剤処理終了後は、散水及びハウス側面の開放を行い、十分換気した後入室する。

④ 6. 苗床土に土壌表面散布の際は、吸収缶(活性炭入り)付き全面体防護マスク、不浸透性手袋、ゴム長靴、長ズボン・長袖の作業衣などを着用する。処理後のシート除去の際にも吸収缶(活性炭入り)付き全面体防護マスクを着用する。

7. 作業に際してはガスに暴露しないよう風向きなどを十分考慮する。

8. 作業後は直ちに手足、顔など石けんでよく洗い、洗眼・うがいとともに衣服を交換する。

9. かぶれやすい体質の人は、取扱いに十分注意する。



(苗床土に土壌表面処理する場合)

・使用前にはラベルをよく読んでください。 ・ラベルの記載以外には使用しないでください。 ・本剤は小児の手の届く所には置かないでください。

